



エピソード

春から虫に興味があり、ダンゴムシやてんとう虫を見つけては虫カゴに入れて喜んでいました。はじめの頃は虫カゴに捕まえて見ているのが好きでしたが、5月にアゲハやツマグロヒョウモンの幼虫を部屋で飼い羽化させることができてから、虫を飼うことに興味が出てきたようで「これはなんていう虫?」「なに食べるかな?」という声が聞かれるようになりました。

それから、バッタを見つけると「これはなんていうバッタかな!?」「なんやろうな?あ!図鑑もってくるわ!」「これや!」と、友達同士で相談しながら調べる姿が見られるようになりました。また、虫カゴの中にバッタに必要な草や水を用意し、バッタが過ごすことができるような環境を整えるようになりました。

子どもの育ちや学び

- ・子どもたちはわからないことを自ら調べることで、好奇心がどんどん高まっています。「どうしたらこの虫を飼うことができるかな?」と考え、自ら調べることでまた一つ新しいことを学びながら、たくさんの情報に触れることができています。
- ・友達と考えを互いに伝え合うことで、言葉を学び、考えるなど、コミュニケーションを取る力を伸ばしています。

保育者の思い

- ・子どもたちが自ら調べることで、さらに好奇心を高めて欲しいと思います。また、「わからないことは調べよう」と自主的にさまざまな情報を得て欲しいと思っています。
- ・たくさんの自然に触れることで、観察力を身につけるとともに、命の大切さにも触れて欲しいと思っています。

家庭だったら・・・

- ・「これはなに?」など、子どもたちに疑問に思ったことを聞かれることはよくあります。しかし、ただ伝えてしまうのではなく、「なにかな?一緒に調べてみようか。」とお家の方も一緒に調べてみてください。その中で親子の会話を改めてゆっくり交わしてみてください。新たな発見があるかもしれません。
- ・いまはスマホやインターネットが主流で、検索をかけるとすぐに答えが出てきます。その中で、本を開いて、一つ一つの写真や文字を見ながら調べることでさまざまな情報に触れることができます。図鑑や本に触れるように伝えてあげてください。